

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期越生町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

埼玉県入間郡越生町

3 地域再生計画の区域

埼玉県入間郡越生町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、国勢調査によると平成12（2000）年の13,718人をピークに減少しており、令和2（2020）年には11,029人まで落ち込んでおり、住民基本台帳によれば、令和8（2026）年1月には10,516人となっている。国立社会保障・人口問題研究所によると、令和27（2045）年には総人口が6,975人となる見込みである。

年齢3区分別の推移を見ると、年少人口及び生産年齢人口の割合は減少を続けており、平成27（2015）年から令和2（2020）年では、年少人口の割合は10.0%（1,169人）から8.5%（933人）に減少し、生産年齢人口の割合は59.0%（6,906人）から55.2%（6,055人）に減少している。一方、老年人口は31.0%（3,633人）から36.3%（3,984人）に増加しており、総人口に占める年少人口及び生産年齢人口の割合は年々低下し、少子高齢化が進展している状況にある。なお、令和7（2025）年10月では年少人口は7.2%（763人）、生産年齢人口は53.2%（5,638人）、老年人口39.6%（4,191人）となっている。

自然動態について、出生数は減少傾向にある一方、死亡数は高い水準で推移しており、令和5（2023）年では出生数が41人、死亡数が185人で、144人の自然減となっている。また、合計特殊出生率は1.04となっており、全国の1.20、埼玉県の1.14を下回っている。

社会動態について、令和5（2023）年は、転入615人、転出656人で転出超過は41人となっている。一時的に転入超過となった令和3年度を除き、平成14年から

毎年 80 人程度の転出超過で推移しており、社会減が続いている。このように人口減少は、出生数の減少（自然減）と転出者の増加（社会減）等が原因と考えられる。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な影響が懸念される。

これらの課題を解決するため、越生町まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、雇用の創出や交流・関係人口の増加、結婚・出産・子育て支援、安全安心で魅力あるまちづくりを推進し、転出抑制と移住定住を促進することで人口減少に歯止めをかけ、持続可能なまちづくりを目指すこととする。なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- 基本目標 1 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 基本目標 2 越生町に住む・通う・訪れる人の流れを生み出す
- 基本目標 3 里山を活かした地域のしごとを育てる
- 基本目標 4 安心して暮らせる魅力的な地域をつくる

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	合計特殊出生率	1.04	1.05	基本目標 1
イ	社会動態 観光入込数	△41 59万2,000人	△37 60万人	基本目標 2
ウ	1人当たりの町民所得 うめその梅の駅への出荷 者数	236万円 173人	248万円 175人	基本目標 3
エ	健康寿命住民意識調査で 「道路・交通の便が悪い」 と回答する割合	男性18.54年 女性20.93年 26.2%	男性19.70年 女性21.67年 20.0%	基本目標 4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第2期越生町まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 結婚・出産・子育てをかなえる事業
- イ 越生町に住む・通う・訪れる人の流れを生み出す事業
- ウ 里山の魅力を活かした地域のしごとを育てる事業
- エ 安心して暮らせる魅力的な地域をつくる事業

② 事業の内容

ア 結婚・出産・子育てをかなえる事業

結婚、出産、子育てを選択した人が「越生町で結婚し、こどもを育ててよかった」と感じてもらえるよう、切れ目なく支援する事業

【具体的な事業】

- ・ 出会いの機会の創出
- ・ 地域子育てサポート体制の充実 等

イ 越生町に住む・通う・訪れる人の流れを生み出す事業

関係人口の増加を促進し、移住定住の契機につなげるとともに、本町に移住を考えている人の定住支援を行うなど、越生町に人の流れをつくる事業

【具体的な事業】

- ・ 観光イベントの開催
- ・ お試し住宅の活用
- ・ 空き家バンク推進 等

ウ 里山の魅力を活かした地域のしごとを育てる事業

特産果樹である梅やゆずのブランド化、6次産業化に取り組むほか、スタートアップが育ちやすい環境を整える事業。

【具体的な事業】

- ・ 果樹栽培技術の革新
- ・ 特産果樹のPRイベントの開催
- ・ 創業等支援 等

エ 安心して暮らせる魅力的な地域を生み出す事業

越生町の地域特性に即した地域づくり、高齢化や人口減少に対応したまちづくりを進め、安全安心な生活を維持する事業

【具体的な事業】

- ・ 実情に即した地域公共交通体系の構築
- ・ 自主防犯活動、自主防災活動への支援
- ・ 健康長寿プロジェクトの推進 等

※なお、詳細は第3期越生町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

900,000千円（令和8（2026）年度～令和12（2030）年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度8月頃に外部有識者が参画する越生町まち・ひと・しごと創生有識者会議において取組報告と効果検証を行い、必要に応じて翌年度以降の取組方針を見直すプロセスを実行する。検証後は本町ホームページで公表する。

⑥ 事業実施期間

令和8（2026）年4月1日から令和13（2031）年3月31日まで

6 計画期間

令和8（2026）年4月1日から令和13（2031）年3月31日まで